

中村寛先生 : Diabetologia (2010)53:481-488

“2型糖尿病は、夜つくられる!?”

Nocturnal intermittent hypoxia and the development of type 2 diabetes: Circulatory Risk in Communities Study (CIRCUS)

【背景】睡眠時無呼吸症候群(OSAS)と2型糖尿病の関係は以前から指摘されていましたが、今回、OSAS患者が本当に糖尿病になりやすいのか?という前向き研究が行われました。

【方法】40-69歳の3864名の非糖尿病対象者に、パルスオキシメーターを夜間につけて、3%以上の酸素飽和度の低下(3%ODI)の回数、最低酸素飽和度(lowest SPO₂)、酸素飽和度<90%の時間の割合(Duration of SPO₂<90%)と糖尿病進展との相関について6年間追跡検討が行われました。

【結果】3864名対象者のうち、210名が糖尿病を発症、3%ODI>15は、<5の群に比較して2.5倍、lowest SPO₂<83%は、>92%の3倍、高頻度に糖尿病を発症していました。

性別、年齢、BMI、生活習慣(喫煙、飲酒歴)をadjustしたHazard ratioにおいても、3%ODI>15は、<5の群に比較してHR1が.69倍高く、lowest SPO₂<83%は、>92%のHRだ2.36倍であり、OSASが、2型糖尿病発症の独立した危険因子であることが明らかになりました。

【結論】このように、2型糖尿病患者の発症機転には、重度というよりは、繰り返す夜間の無呼吸による間欠的低酸素が各種ストレスを誘導し糖尿病発症に寄与していることが、日本人の研究で明らかとなりました。朝方に血糖が上昇すると、大騒ぎしているかたには、パルスオキシメーターの装着を検討下さい。(文責 阿比留)